

学校教育目標	○ よく考える子ども ○ けんこうな子ども ○ すすんで働く子ども ◎ 思いやりのある子ども	【目指す学校像】	職員が組織的に協働して、児童が主体的に活動し、生涯学習の基礎を確実に身に付け、家庭・地域の信託に応える学校
		【目指す児童・生徒像】	未来の創り手として、自ら考え、創造力・表現力に富み、互いを尊重し人の為に尽くす、心身共に健康で活力に満ちた子供
		【目指す教師像】	児童・保護者・地域の願いを受け止め、熱い心と志を持ち、変革に應ずることなく、使命と役割を遂行し、結果に責任を持つ教師

領域	中期経営目標 (3年間)	短期経営目標 (1年間)	具体的方策	取組指標	評価	成果指標	評価	取組の進捗状況	今後の方向性
確かな学力	答えのない課題に最善解を導くことができる資質能力を育成する。	基礎的・基本的な学習内容の定着	教育活動全体を通して「書くこと」を重視	4 授業で書くことを重視…90%以上の授業 3 授業で書くことを重視…80%以上の授業 2 授業で書くことを重視…70%以上の授業 1 授業で書くことを重視…70%未満の授業	3	4 書くことが好き…80%以上の児童 3 書くことが好き…70%以上の児童 2 書くことが好き…60%以上の児童 1 書くことが好き…60%未満の児童	3	校内研究のテーマである「書くこと」を重視した学習を多様に展開している。「短作文」の積み重ねにより、授業でも「書く力」の向上が見られる。	校内研究の方針に沿って、すべての学級で継続的に、確実に取り組んでいく。
		学ぶ楽しさ、学びに向かう姿勢の向上	UDとICTによる効果的効率的な指導の工夫	4 やさしい学習指導…90%以上の授業 3 やさしい学習指導…80%以上の授業 2 やさしい学習指導…70%以上の授業 1 やさしい学習指導…70%未満の授業	3	4 授業が分かりやすい…80%以上の児童 3 授業が分かりやすい…70%以上の児童 2 授業が分かりやすい…60%以上の児童 1 授業が分かりやすい…60%未満の児童	3	分かりやすく、主体的な学びにつながるような授業の工夫を行っている。とりわけ、全学級でICTを活用して、授業の在り方が変わってきた。	授業の振り返りを大切にし、児童が自ら学びに向かう姿勢を培っていく。
		学習習慣・学習規律の定着	学校の授業・補習と家庭学習の一体化	4 家庭学習との連携を図る…週3回以上 3 家庭学習との連携を図る…週2回 2 家庭学習との連携を図る…週1回 1 家庭学習との連携を図る…週1回未満	2	4 学年×10分の達成…80%以上の児童 3 学年×10分の達成…70%以上の児童 2 学年×10分の達成…60%以上の児童 1 学年×10分の達成…60%未満の児童	2	高学年は、自主学習を取り入れて、成果が出つつあるが、全体的に各学年の実態による宿題が中心で、児童の主体的な学習には至っていない。	家庭学習が定着してきた児童とそうではない児童の差を埋める工夫をしていく。
豊かな心	自分も、他の人も、敬意をもって大切にできる豊かな心情を育成する。	社会性の向上	認知機能や感情統制の支援	4 認知機能・感情統制支援…週3回以上 3 認知機能・感情統制支援…週2回 2 認知機能・感情統制支援…週1回 1 認知機能・感情統制支援…週1回未満	1	4 社会通念上のいじめ…0件 3 社会通念上のいじめ…1件から6件 2 社会通念上のいじめ…7件から12件 1 社会通念上のいじめ…13件以上	3	物事をやり抜くことや、人と敬意をもって関係する姿勢が高まってきており、学校が穏やかで居心地の良い場所と感じている児童が多くなってきた。	社会性を育てるための認知、感情統制、対人スキル等の育成に全校で取り組む。
		自己有用感の醸成	QUの結果を踏まえた特別活動の充実	4 自己有用感を図る特活…月3回以上 3 自己有用感を図る特活…月2回 2 自己有用感を図る特活…月1回 1 自己有用感を図る特活…月1回未満	2	4 自分の価値を実感…80%以上の児童 3 自分の価値を実感…70%以上の児童 2 自分の価値を実感…60%以上の児童 1 自分の価値を実感…60%未満の児童	2	全校で、自己有用感を重視した学級経営に取り組んでいる。互いを認め合うことで、かけがえのない自分の価値を感じる児童が多くなってきた。	QUの結果を踏まえた特別活動を工夫し、豊かな自己表現力を醸成していく。
		心の居場所づくり	全教員が一体となった個の支援・相談	4 学級以外の児童支援…週3回以上 3 学級以外の児童支援…週2回 2 学級以外の児童支援…週1回 1 学級以外の児童支援…週1回未満	3	4 担任以外に相談できる…80%以上の児童 3 担任以外に相談できる…70%以上の児童 2 担任以外に相談できる…60%以上の児童 1 担任以外に相談できる…60%未満の児童	4	子供たちは、担任以外でも自分のことを気にかけてくれているという意識があり、話しやすい大人が校内にたくさんいるという雰囲気がある。	すべての児童が、いつでも心を開いて大人と話ができるように、信頼関係を高めていく。
健やかな体	生涯にわたるスポーツに親しみ、心身ともに健康に過ごす資質能力を育成する。	基本的な生活習慣・食習慣の定着	生活習慣改善に向けた家庭との協働	4 生活・学習のすすめを活用…月3回以上 3 生活・学習のすすめを活用…月2回 2 生活・学習のすすめを活用…月1回 1 生活・学習のすすめを活用…月1回未満	2	4 1日の病欠児童数…平均3人以下 3 1日の病欠児童数…平均4～5人 2 1日の病欠児童数…平均6～8人 1 1日の病欠児童数…平均9人以上	3	感染防止の取り組み等を通して、基本的な生活習慣や健康について、家庭との信頼関係を築いている。児童の病欠が大幅に減少している。	家庭との意思の疎通とともに、多様な啓発をすることで、家庭と協働していく。
		体力・運動能力の向上	運動習慣に結びつく授業の工夫	4 元気アップの取組…18項目以上 3 元気アップの取組…14項目以上 2 元気アップの取組…10項目以上 1 元気アップの取組…10項目未満	1	4 運動することが楽しい…80%以上の児童 3 運動することが楽しい…70%以上の児童 2 運動することが楽しい…60%以上の児童 1 運動することが楽しい…60%未満の児童	2	体育集会ができないなど、元気アップの活用が低迷しており、具体的な取組ができていない。休校の影響もあり、運動習慣の復活が急務である。	体育公開に向けて、運動への関心が高まっており、継続した取り組みにつなげていく。
		オリンピック・パラリンピック教育の推進	発達段階に応じた4×4の取組	4 4×4の取組…全学級年3回以上 3 4×4の取組…全学級年2回 2 4×4の取組…全学級年1回 1 4×4の取組…全学級年1回未満	1	4 オリパラの精神の理解…80%以上の児童 3 オリパラの精神の理解…70%以上の児童 2 オリパラの精神の理解…60%以上の児童 1 オリパラの精神の理解…60%未満の児童	1	休校期間が長期になったこと、オリンピック・パラリンピックが延期になった影響もあり、今年度の前半は、まったく取り組むことができなかった。	この時期こそ、オリパラの精神に立ち戻り、心を耕す取り組みをしていく。
輝く未来	社会や世界と向き合い、未来の創り手となる資質能力を育成する。	課題解決・探究的な学習の充実	学校図書館機能の活用充実	4 図書館を活用した授業…全学級月3回以上 3 図書館を活用した授業…全学級月2回 2 図書館を活用した授業…全学級月1回 1 図書館を活用した授業…全学級月1回未満	2	4 図書の貸出冊数…年間平均50冊以上 3 図書の貸出冊数…年間平均30冊以上 2 図書の貸出冊数…年間平均10冊以上 1 図書の貸出冊数…年間平均10冊未満	2	学校図書館を普通教室として使用しているため、通常の活用が困難な状況であるが、工夫して活用している。貸出冊数は伸びていない。	学習指導要領の趣旨を踏まえて、最低限の活用はできる方策を立てる。
		主体的・対話的で深い学びの推進	全教育課程を通して言語活動を充実	4 略案による授業観察…年6回以上 3 略案による授業観察…年5回 2 略案による授業観察…年4回 1 略案による授業観察…年3回以下	2	4 話合いができる…80%以上の児童 3 話合いができる…70%以上の児童 2 話合いができる…60%以上の児童 1 話合いができる…60%未満の児童	4	どの学年の児童も、自分の言葉で、自分の意見や思いを語る姿勢や力が付いてきており、互いを尊重した話合い活動も充実している。	教科のねらいを達成できる対話的な学びをさらに工夫し、確かな学力を向上させる。
		地域の中の学校としての役割の遂行	家庭や地域との協働	4 家庭や地域と協働した取組…年3回以上 3 家庭や地域と協働した取組…年2回 2 家庭や地域と協働した取組…年1回 1 家庭や地域と協働した取組…年1回	1	4 学校は信頼できる…80%以上の保護者 3 学校は信頼できる…70%以上の保護者 2 学校は信頼できる…60%以上の保護者 1 学校は信頼できる…60%未満の保護者	3	感染感染の観点から、家庭や地域との直接的な協働はできていないが、情報交流や意思の疎通はかなり深く、信頼感はかなり高まっている。	相互交流が出来るオンライン等を加えて、開かれた学校づくりをさらに推進していく。